

世界各地で医療援助活動を展開するAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市榎津）。阪神大震災で国内初の緊急救援を実施し「写真、その後もサリンやインドネシア、メキシコの地震の被災地にいち早く医療チームを派遣、ますます注目を集めている。しかし極めてアジア的な「相互扶助」を理念とするAMDAの活動は、国連活動、NGO（非政府組織）のネットワーク作りなど、派手な緊急救援にとどまらず、しっかりと地域社会に根をおろしている。『良き医療、良き将来』を合言葉に岡山から世界をにらむAMDAとは一体、どんなグループなのか。自らもボランティアとして、その活動に参加しながら、阪神大震災をきっかけに、ようやく「元年」といわれる国内NGO、ボランティア社会のあり方を考えてみる。

（一色 昭宏）

AMDAボランティア代表の岡山市福泊、病院勤務、福家寿樹さん（三）は八月、AMDAなど民間七団体が参加するJEN（日本緊急救援NGOグループ）が難民支援を行っている旧ユーゴスラビアで、物資の配給を手伝った。「海外でボランティア活動。私がそんなことをするなんて今でも信じられません」

福家さんがAMDAの活動に参加したのは、そのわずか七カ月前、一月の阪神大震災の時だったから。ボランティア経験

「良き医療、良き将来」合言葉に

AMDA 一九七九年、三人の医師、医学生が内戦でタイに避難したカンボジア難民の救援に駆け付けたが、受け皿がなく何も活動できなかったことを反省してアジア各国の医学生が連携、八四年に誕生した。現在、十五カ国に約九百人の会員を持つ。

ワゴン車で通勤する福家万という人が行動を起こしさんはAMDA本部に救援した。阪神大震災はNGO物資の運搬を申し出た。仕が社会に認められる大きな契機になった」と指摘する。

行政がほとんど機能しない発生当日、AMDAの医師なんて特別な人がする療チーム六人が現地入りしものと思っていたが、そうして活動を始めると、大震災での活動には世界で培った経験が生かされたが、中間中、AMDAには義援金

や救援物資だけでなく、全の個人ボランティアに支え



国からボランティア約千人が駆け付け、援助物資の分けや炊き出しなどの後方支援にあたった。

「ボランティアを始め視野が広がった」と、福家さんは言う。右も左も分からなかった一月から、今では講演に招かれる高校で「まず、自分ですることから始めよう」と生徒に呼びかけるまでになった。「この一年で大きな財産を得た」と振り返る。

菅波茂・AMDA代表は「身近な神戸の震災に何十

（つづく）